

## 重要取組シート

産業振興局 農政部 農水産課

取組項目	地産地消の農業の推進
現状・課題	<p>【現状】</p> <p>(農業祭)</p> <p>○ 大仙公園内の2会場で約45,000人が来場し、とれとれ市や花市の前には長蛇の列ができ、12時頃に野菜は完売するなど盛況であった。農家の直売コーナーやキッチンカーでも「堺のめぐみ」を提供したほか、『堺伝匠館』等とも連携し伝統産品等の展示販売を行った。来場者アンケートによると幅広い世代が来場しており、農業機械の展示など体験型のコンテンツはファミリー層を中心に人気があった。</p> <p>(堺のめぐみ)</p> <p>○ 農業振興ビジョンに基づき、堺産農産物の地域内利用の促進に重点的に取り組んできた結果、堺市基本計画のKPI(下欄参照)55%を令和4年度62.5%で達成している。</p> <p>(オーガニックビレッジ)</p> <p>○ 本市の農地の多くは水田であり、主に化学農薬、化学肥料を用いた水稻の栽培が行われている。その一方で、酪農団地では多くの乳用牛が飼育されており、牛ふん堆肥が生産されている。こうした状況を踏まえ、昨年度に牛ふん堆肥を用いた水稻栽培を行い、収穫量や品質など良好な検証結果が得られ、また試食販売も実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>(農業祭)</p> <p>○ 農業振興に向けた体験型コンテンツの充実により、来場者の満足度を向上させることや、次世代への訴求を図ること。</p> <p>(堺のめぐみ)</p> <p>○ 市民が堺産農産物に触れる機会を増加させるため、堺産の表示の推進と販売場所を充実化するなどの取組を推進すること。</p> <p>(オーガニックビレッジ)</p> <p>○ 資源の地域内利用を進めるため、牛ふん堆肥を用いた水稻栽培に取り組む生産者を増加させるほか、収穫した米の市民への周知と消費拡大のための効果的なPRや、水稻に限らない取組が必要であること。</p>
取組の内容	<p>(農業祭)</p> <p>○ 民間事業者との連携や、昨年度のアンケート結果などを踏まえての、友好都市の特産品の出店等、コンテンツを充実化することで、全世代へ「堺のめぐみ」や本市並びに関係産業等の魅力を発信する。</p> <p>(堺のめぐみ)</p> <p>○ 本市関係施設や量販店での販売イベント等を積極的に開催又は参加し、市民への周知活動を実施するほか、SNS等も含めた情報発信を進め、「堺のめぐみ」の認知度と話題性を高める。</p> <p>(オーガニックビレッジ)</p> <p>○ 牛ふん堆肥の継続使用による経年影響や、牛ふんのペレット堆肥を用い、水稻への影響、労力の増減の検証を行い生産者への普及啓発に努めるほか、野菜等の生産者も含め、減農薬減化学肥料栽培の講習会等を開催する。消費者に対しては、</p>



未来都市計画 堺市SDGs	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 2	飢餓をゼロに	
	寄与する KPI	市内で採れた食材を食べていると答えた人の割合（概ね6か月以内）[現状値：参考値42.8%（2019年度）]		目標値（2025年度） 55.0%